

事業報告

プレ事業



張強「動物先生」
(2014年 優秀賞)



| 事業報告 | プレ事業 1

大分アジア彫刻展 「紹介展」

いま “現代のかたち”

開催日/2022年1月13日(木)~2月10日(木)
会場/さいき城山桜ホール(佐伯市)
来場者数/10,905人
主催/大分アジア彫刻展実行委員会



Sunil BINDHANI「IT Baby」
(2014年 優秀賞)

020

澤田 志功
「Lunar Plant」
(2006年 大賞)



Ronald VENTURA
「ZOO KEEPER」
(2008年 優秀賞)

アジアの新進彫刻家の情熱にふれる

東アジア文化都市2022大分県の開催にあたり、県民への周知と機運を醸成するプレ事業の第一弾として、斬新な発想やデザインの数々に触れることができる「大分アジア彫刻展」の作品展示を実施しました。

大分アジア彫刻展は、大分県豊後大野市出身の彫塑家 朝倉文夫の業績を顕彰して、1992年に始まったアジアの新進彫刻家の登竜門と位置付けられる国際公募展。2年に1度、ビエンナーレ方式で開催しています。

今回は大分アジア彫刻展の過去の実賞作品を紹介。2006年に開催した第8回展大賞作品「Lunar Plant」や、第9回展優秀賞作品「ZOO KEEPER」など、フィリピンや中国、インド、日本の彫刻家によるこれまでの同展入選作品4点と、朝倉文夫の作品「居眠る猫」を多くの来場者が鑑賞しました。



朝倉文夫作
「居眠る猫」



〈in たけた〉川久保賜紀×遠藤真理×山中惇史 室内楽の午後
開催日／2022年1月23日(日)
会場／竹田市総合文化ホール グランツたけた 廉太郎ホール(竹田市)
来場者数／125人 主催／一般財団法人竹田市文化振興財団

事業報告 プレ事業 2

第22回別府アルゲリッチ音楽祭

地域拠点コンサート

〈in ひた〉上野耕平&山中惇史デュオ・リサイタル
開催日／2022年2月11日(金)
会場／日田市民文化会館 パトリア日田 大ホール(日田市)
来場者数／250人 主催／日田市民文化会館

022

〈in ぶんごおおの〉宮田大&大萩康司スペシャルデュオ

開催日/2022年3月6日(日)

会場/豊後大野市総合文化センター エイトピアおおの 大ホール(豊後大野市)

来場者数/500人 主催/豊後大野市総合文化センター



開催概要

事業概要

事業報告

共同宣言

資料

写真すべて © 脇屋 伸光

大分に響く 優雅な音色に酔いしれて

別府アルゲリッチ音楽祭の成果を地域で共有し、豊潤な音楽の実りを分かち合うことを目指して、大分県下のホールなどと連携した演奏会を開催しました。

竹田市では、ソリストとして活躍中の川久保賜紀氏と遠藤真理氏、ピアニスト、作曲家としても高い評価を得ている山中惇史氏が、美しい音色を奏でました。日田市では、人気・実力を兼ね備えたサクソフォン界の逸材、上野耕平氏と、山中惇史氏が演奏。また、豊後大野市では、海外でも活躍し、日本を代表するチェロ奏者の宮田大氏、国内外で支持されているギタリスト、大萩康司氏が優雅な調べを披露しました。

PROGRAM

〈竹田市〉

- G.カッチーニ(山中惇史編):アヴェ・マリア
- M.ラヴェル(山田武彦編):亡き王女のためのパヴァーヌ
- C.サン＝サーンス:白鳥
- G.カサド:親愛の言葉
- G.ガーシュウィン(J.ハイフェッツ編):
「ボーギーとベス」より サマータイム
- 坂本龍一:メリー・クリスマス・ミスター・ローレンス
- L.バーンスタイン(山中惇史編):
「ウェスト・サイド・ストーリー」メドレー
- F.メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 op.49

〈日田市〉

- J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007から
プレリュード、クランツ、サラバンド、ジューグ
- L.v.ベートーヴェン:モーツァルトの歌劇《魔笛》から
「恋を知る殿方には」の主題による7つの変奏曲WoO46
- L.v.ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第8番 八短調 op.13
「悲愴」
- H.トマジ:バラード
- G.ビゼー(山中惇史編):カルメン・ファンタジー

〈豊後大野市〉

- E.サティ:ジュ・トゥ・ヴ
- R.ニヤタリ:チェロとギターのためのソナタ
- R.ヴォーン・ウィリアムズ:揚げひばり
- A.ピアソラ:タンティ・アンニ・プリマ
- :フエノスアイレスの冬
- :フエノスアイレスの夏

事業報告 | プレ事業 3

OPAMライトアップイベント

開催日 / 2022年1月31日(月)
会場 / 大分県立美術館、iichiko総合文化センター(大分市)
来場者数 / 約13,000人(YouTube視聴者数)
主催 / 東アジア文化都市2022大分県実行委員会



春節色に染まる芸術文化の拠点

日本と中国は、2022年に国交正常化50周年を迎えました。東京都内で日中友好促進と新型コロナウイルス感染症の早期収束を祈って「東京タワーレッドライトアップ」や点灯式が行われました。

大分県では、同イベントと連携し、大分県立美術館と向かいにあるiichiko総合文化センターとを赤色でライトアップ。あたりは幻想的な雰囲気になりました。

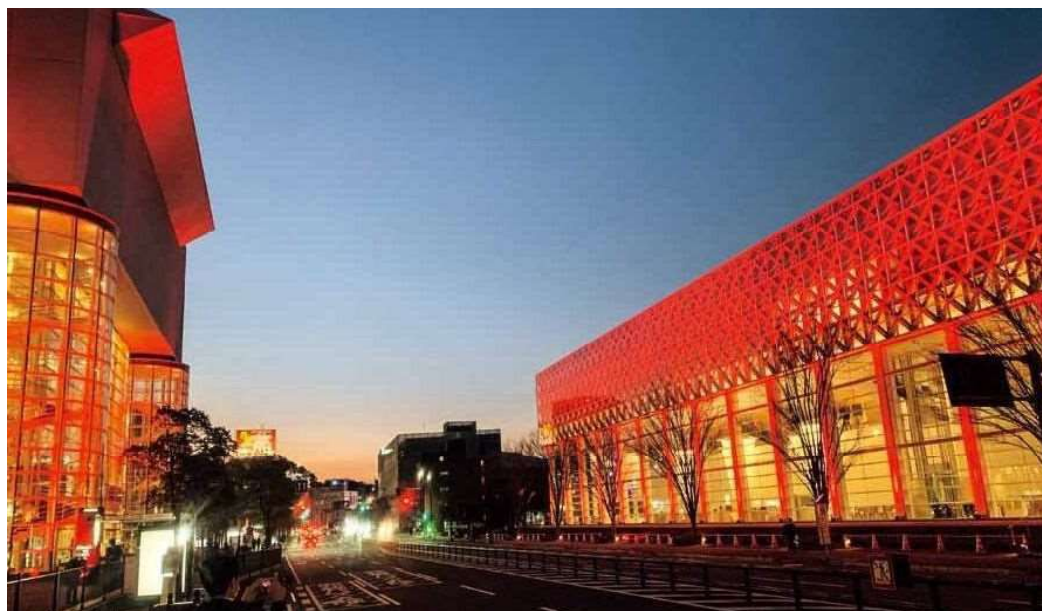
当日の様子は、東京の会場と大分を中継で結んで、YouTubeや中国本土の地上波でライブ配信されました。また、iichiko総合文化センター1階アトリウムでは、別府アルゲリッチ音楽祭ゆかりの若手演奏家で編成したトリオによる特別演奏（瀧廉太郎「花」）が披露されました。



点灯式



「東京タワーレッドライトアップ」の点灯式で生配信されたDRUM TAOによる和太鼓パフォーマンス



ライトアップされたiichiko総合文化センターと大分県立美術館



事業報告 | プレ事業 4

コシノジュンコ「原点から現点」

開催日 / 2022年4月15日(金)～5月29日(日)

会場 / 大分県立美術館 1階 展示室(大分市)

来場者数 / 16,230人

主催 / コシノジュンコ「原点から現点」実行委員会、
公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館

世界的ファッションデザイナー コシノジュンコの過去最大規模の展覧会

世界的なファッションデザイナーであり、アートクリエイターでもあるコシノジュンコ氏。創造の原点となる大阪・岸和田の高校時代に描いたデッサンをはじめ、最年少の19歳での装苑賞受賞作品、大阪万博のユニフォーム、2012年から手掛ける大分県の和太鼓演奏集団「DRUM TAO」の舞台衣装などを、実物の衣装やデザイン画、映像により紹介。コシノジュンコ氏の多岐にわたる創作活動の、まさに「原点から現点」をたどることができる作品群が、新たな創造を繰り広げる活動の全貌として、ダイナミックに展開されました。ファッションを通じてコシノジュンコ氏が創出した「対極」という世界観が、今回の展示で来場者の心に強く刻み込まれました。



関連イベント

トークイベント “コシノジュンコ「原点から現点」”

2022年4月15日(金)
会場/大分県立美術館 1階 アトリウム
登壇者/コシノジュンコ

JUNKO KOSHINO × DRUM TAO Presents OPAM ARTS LIVE 2022

2022年4月23日(土)
会場/大分県立美術館 1階 アトリウム
出演者/和太鼓エンターテイメントDRUM TAO
ダンサー 西島数博ほか
総合プロデュース/コシノジュンコ×フランコドラオ

トークイベント 「コシノジュンコ×DRUM TAO」

2022年4月24日(日)
会場/大分県立美術館 1階 アトリウム
登壇者/コシノジュンコ
藤高郁夫 (DRUM TAO代表・演出家)

学芸員によるギャラリートーク

2022年4月16日(土)、
5月10日(火)・11日(水)・17日(火)
18日(水)・21日(土)・22日(日)・23日(月)
24日(火)・25日(水)・26日(木)・27日(金)
会場/大分県立美術館 1階 展示室A

トークイベント 「コシノジュンコ×加藤登紀子」

2022年5月13日(金)
会場/大分県立美術館 1階 アトリウム

トークイベント 「コシノジュンコ×杏子-Kyoko-」

2022年5月29日(日)
会場/大分県立美術館 1階 アトリウム



会期中は、コシノジュンコ氏に関する様々な関連イベントも開催。10年以上にわたって舞台衣装を手掛けるDRUM TAOとダンサーの西島数博氏らとのコラボライブや、かねてより親交が深い歌手の加藤登紀子氏や杏子-Kyoko-氏とのスペシャルなトークイベントも実現しました。

歩き始めれば景色は変わる

国民文化祭、ラグビーワールドカップと続き、活力がみなぎった大分の芸術・文化・スポーツ活動がコロナ禍の中で中断されようとしていました。その時に「東アジア文化都市2022大分県」が開催され、以前の流れを蘇らせ、継続させたことがまず大きな成果でした。そして、それぞれのイベントが他分野とのコラボなど新しい企画での取組が行われ、切り口の新鮮さと重厚さはこれからの活動に役立つものになると思われま

す。県民文化祭や開幕の日舞なども、これまでと一味違ったいろいろな組み合わせが行われましたし、閉幕関連行事の創作舞台「ムジカと生きる」では、組織面でも大分県芸術文化スポーツ振興財団と大分県芸術文化振興会議との合同による初めての舞台で、県内各種の芸術団体の総合力を発揮したものとなりました。

また、この「東アジア文化都市2022大分県」では様々な収穫がありました。一つは、中国・韓国との文化交流により、つながりが深くなったことです。宇佐市の文化協会や新しく生まれた書道の若者とベテランの合同の会をはじめ、多くの団体が慶州市と深く交流しました。そして、これらの新しい形の結びつきが若者の感性を刺激し、次の世代へのバトンタッチの起点になったことも大きな収穫でした。

今年生まれたこの動きは、一年で終わらせるのではなく、今後も東アジア文化交流のレガシーとして、継続していかなければと思っています。



理事長
戸口勝司 Katsuji Toguchi
NPO法人 大分県芸術文化振興会議